



## こっくりとうなずく

---

僕はポケットに手を突っ込みながら、帰り道をいつもの3倍以上時間をかけて歩いていた。

ポケットの奥には、できるだけ小さく降りたたまれた数学のテストが入っていた。

小学校から高校の今まで、テストで50点以下の点数なんて取ったことがなかった。それなのにこの点数は...

原因はわかっていた。確率だ。

数学の範囲が確率の箇所に来たとたん、僕の頭は溶けてドロドロになったキャラメルみたいにこんがらかった。

どういうことだろう。

何回に一回くじがあたるとか、どうしてわかるのだろう。

未来を予測できるのだろうか。

足取りは重い。こんな時大人は、一杯引っ掛けて帰るのだろうな。と僕は想像した。

それができない高校生は...

ぼくは帰り道をちょっとそれた所にある、児童公園に立ち寄った。子どもの頃からよく遊んでいた場所だ。

ブランコにすらすら揺られていると、不思議な構図をみつけた。

それは、一人のおじさんと、一人の幼児とで構成されていた。おじさんは、ベンチに座っているのだが、かなり前傾姿勢で、肘を膝に立て、手の上に顎を乗せ、完全に眠っている。その顔をガン見している幼児は、ベンチの目の前にある砂場にすこしうずもれた状態で座っていた。

僕はそれを横目で見ていた。おじさんは比較的普通なのだが、それを見ている幼児の眼差しは、真剣そのものだった。まばたきひとつしない。

僕は時々まばたきしながら、その様子をうかがった。

おじさんの寝息が聞こえてくる。おじさんなのに、いびきはかいていない。

そしてこの不思議な構図の中で、もう一つ不思議な出来事がおこった。それは、幼児がこくりとうなずいたのである。スースー寝息を立てているおじさんに対してである。

何に対して？

その内に、幼児は立ち上がった。砂がバラバラと幼児の服から舞い落ちた。

そしてなんとなく、僕はその幼児と目があった。

何にうなずいてたの？と僕は思わず口にしていた。

男の子は、

おじさんが人生のきょうくんを教えてくれたからと言った。

なんて？

「人生の八割は上手くいかない」って

でも、おじさん寝てるよ？と僕は一番の疑問をついに取り出した。

「お兄さんもやってみれば！」

そう言うと男の子は、鉄棒のある方へスタタタと走って行ってしまった。

いけない。子どもを、怖がらせてしまったか。

けれど僕は好奇心に駆られて、砂場に座ってみた。砂の感触が懐かしい。

そして、おじさんの顔をまじまじと見た。

しかし、5分待っても、10分待っても、おじさんは語りかけてこない。なにかテレパシーみたいなものを使っていたのかと思ったが、そうではないのか。それとも、子どもにしかわからない何かがあるのだろうか。ぼくも、もう歳だ。と、人生で初めて思った。

おじさんの眉間にはしわが寄っていた。僕もいつかこうなるのだろうか。

その顔を見ていると、じわじわとなにか感じるものがあった。

人生の八割は上手くいかない

そんなに上手く行かないものか？とさっき聞いた時は思ったけれど、おじさんの顔を見ていると、だんだんそんなような気がしてきた。

ふうー、と僕はおじさん鑑賞を終わりにして立ち上がり、おじさんの隣に座った。

向こうでは、さっきの幼児が活発に鉄棒をしていた。逆上がりの練習をしているようだが、何回かに一回しか成功しない。

「若いっていいなあ」

僕は自然に小さく折りたたまれた、数学のテストに手を伸ばした。

ポケットの中で、それは温まっていた。少し熟成されたみたいだ。

一つ一つ開いていくと、20という赤くて力強い文字が見えた。

さっき折りたたんだ時のような切羽詰まった思いは薄れていた。

「人生の八割はうまく行かない」

また、この言葉が頭によぎった。

「たしかに」

そういうと、僕は立ち上がった。

すると、僕の帰る雰囲気を一早く察知し、さっきの幼児がこちらに向かって駆けて来た。

「ねえ、お兄さん！」

「ん？」

「人生の八割はうまく行かないって、どういう意味？」

「うーん。」

と僕は考えた。

「10回の内、2回は、上手く行くってことさ」

「そう！」

そう言って、幼児は、また鉄棒に駆けて行った。

おわり

## 【2018-04-16】指さし小説 第25話

<http://p.booklog.jp/book/121530>

著者：かっこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/resipi77/profile>

今回のテーマは、「こっくりとうなずく」でした。

え？単語じゃないの？と思ったあなた、実はこれには訳があるのです。

今回使った辞書は、韓日辞書だったので、日本語で一語では表せない単語も入っていたのですねえ。

ちなみに、韓国語では、까딱というそうです～

私も初めて知りました！

今回のおじさんの教訓、高校生時代に先生に言われたことばなんですよ～  
歳をとるたびに、上手くいかない割合が、増えているような気がします。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/121530>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト